

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079200319		
法人名	有限会社 豊		
事業所名	グループホーム 豊		
所在地	福岡県田川郡香春町大字採銅所5384-1		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果確定日	平成22年12月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の認知症高齢者のペースを十分把握し、ゆったりと安全快適な生活ができるような介護を目指しています。身体に影響が出ない限り日課を強要することなく、自身のペースが保てるよう見守っています。スタッフ全員が日々の変化やリスク、BPSDに適切に対応できるよう週末ケア会議を確実に開催しています。理念にある利用者様の喜びや悲しみを共有できるようスタッフの心のゆとりを育める職場環境づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道沿いに広がる田園風景の中に、2階建ての2ユニットのホームと特定施設が併設されており、日常的な交流が行われている。近隣にはホームの農園もあり、地域の方々の協力も得ながら、野菜の生育、収穫の喜びを共有しており、旬の食材を味わう楽しみもある。これまでの暮らしの継続に向けた支援として、同好会参加への支援、馴染みの店でのこだわりある買い物、信仰の継続、住み慣れた地域での行事参加等、一人ひとりに応じた個別支援が行われている。併設施設や法人グループ内での連携・交流は、サービス向上に活かされ、系列の保育園児たちとのふれあいの場面では、入居者の方々の特別の表情を見ることが出来る。職員は、週末ケア会議、月例会議、月例研修会等にて、入居者一人ひとりを主役とする暮らしの実現に向けて、研鑽を重ねている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさを保て安心して生活できることを念頭に理念をつくり、理念に添った介護を提供できるよう定期的に学習会を開催している。また朝礼時に全員で唱和し、理念が介護者の心理に根付くように努力している。	申し送り時の唱和や勉強会にて取り上げることで、実践に向けた確認を行っており、日々心に刻みながらの支援となるよう努めている。職員間で意見を出し合い、新たに作成された5項目の言葉には、ホームとしての支援の方向性が明確に示されている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で催される行事には可能な限り参加できるように配慮している。また近隣の人達とは立ち止まって話しをするなど気さくに交流できている。	地域に居住されていた方が多く、季節の行事、祭り等、馴染みの催しに積極的に参加している。近隣の商店等への買い物等、地域の一員として日常的に交流している。ホームの農園での収穫までの過程において、地域の方々の応援も大きい。法人として自治会に加入している。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の中央玄関には外来者の目に止まる様、認知症相談の貼り紙をしている。介護の相談があれば、十分時間をとり相談内容を受け止め丁寧に対応している。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年に6回開催している。その際、委員の方から頂いた意見を吟味し、サービスの質向上に向けて努力している。	毎回丁寧な取組みと記録が成されているのが確認できる。家族役員に案内を行い、毎回2～3名の家族の参加がある。入居者・町役場職員等の参加にて、サービス内容やリスクマネジメントについての報告を行い、意見要望を運営に反映させるよう取り組んでいる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回出席いただき、ケアやサービスの現況報告を行っている。また自治体独自のサービスの紹介を受けるなど協力が得られている。	町役場に出掛ける際には、現状報告を行ったり、情報収集の機会としている。法人として多様な福祉事業を展開しており、行政からの情報が入り易く、相談し易い環境にある。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開催している。中央玄関の施錠は夜間帯のみとし日中は開放している。徘徊出現時は行動を制御することなく、さりげなく見守るようするなどリスクに対処している。	併設する特定施設への行き来ができ、中央玄関は日中施錠されていない。研修等において、禁止の対象になる具体的な行為を学び、申し送り時にも確認を行っている。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催している。業務の偏りをなくし公平性を重視するなど気持ちにゆとりをもてる介護を実践できるよう努力している。	

福岡県 グループホーム 豊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度の利用は1名である。制度を理解できるよう勉強会を開催している。	外部研修に参加する事に加え、法人からの情報提供もあり、現在、関係機関との連携により、制度を活用している方への支援を行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に至るまでの過程において十分、ご家族やご利用者が検討できるように体験入所を行なっている。契約内容の改定等の際には納得が得られるよう十分説明を行なっている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族を委員とし定期的に運営推進会議を開催している。意見、要望には出来る限り答えるよう努力している。	家族会はないが、常に運営推進会議に2～3名の家族の参加がある等、家族が意見を表出できる機会も多い。また、アンケート調査を実施することで、生活や食事等に対する具体的な意見を求めている。入居者、家族からの意見要望があった場合には、毎日の申し送りで伝達し、対応している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設運営について定期的に職場会議を開催している。職員より積極的な意見があり、サービスの質向上に繋がっている。	居室担当制の導入や、職員の能力が発揮できるよう、レクリエーション、食事、研修、備品管理、環境整備、豊互等の各委員会を設けている。定期的に職場会議を開催し、積極的な発言を求めながら、反映させるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況をみて無欠勤や有給休暇未消化者には毎年報酬を出すこととしている。また介護職員処遇改善交付金の受給要件、キャリアパスを導入、介護職員評価表を用い賞与額に反映させる予定である。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	代表者が募集を行い面接し採用を決定する。採用条件には性別や年齢制限はない。定年制は一応設けているが職場が必要とする人材であれば採用継続がある。	職員の採用にあたっては、年齢や性別等の制限は設けておらず、法人代表者による面接が行われている。支援に向けての謙虚な姿勢や傾聴する姿勢を大切にしている。外部研修参加時や資格取得時等に法人としてのサポートを行っている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習は必修の項目として毎年取り入れられている。当施設でも人権の意味を十分理解し一人一人の尊厳を大切にできる介護を今後も提供していきたい。	人権学習は必須の項目として、毎年研修計画に盛り込まれている。毎回の申し送り時に理念を唱和し、意識付けを行うことも人権教育につながっている。	

福岡県 グループホーム Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はそれにかかる諸経費を負担し勤務日として処理している。また運営、介護に必要な各種専門誌は必要経費とみなし購入。購読を勧め、知識を拡げることができるよう環境を整えている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内で施設を見学したり、管理者間で意見交換するなど交流している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には施設概要等情報を細かく提供すると共にご利用者の相談内容と心身状況を確認、求めている生活が当施設で可能かどうか検討した上で契約を締結している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも同様に面談の際、十分に要望等伺える時間を設け、納得の行く生活ができるかどうか十分検討したうえで契約を締結している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で当施設より適したサービスがあると判断した場合は他の介護福祉サービスについて説明を行ない利用を勧めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者の関係性について、職員はご利用者に対して基本的に施設を利用していただいている顧客という考え方で接している。しかし職員にとって施設は第二の生活の場といっても過言ではない。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者にとってご家族は何にも変えがたい存在。面会時には日頃見れない嬉しい顔をされる。面会の折にはご家族からの要望を伺い、日頃の生活に生かすよう努力している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の行きつけの商店への外出支援、同好会への参加を支援している。	近郊から入居されている方も多く、四季の町内行事やお祭り等に積極的に参加している。手紙のやり取りや、同好会への継続参加、馴染みの店でのこだわりの買い物等、一人ひとりへの個別支援が行われている。	

福岡県 グループホーム 豊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	気のあう方たちが一緒に行動することで穏やかに生活 できていると感じる場面がある。一人で過ごすことが 好きなご利用者もおられるのでそれぞれの個性を大切 に援助したい。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じ、入院施設へ赴いたり、ご 家族の相談を受けるなど関係性を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症勉強会を定期的開催、その人らしさとは何かを 追及し配慮することにより生き生きとした生活が出来 る様努力している。	職員体制も安定しており、馴染みの担当者・職員によ り継続性ある支援の中で、思いや意向の把握に努め ている。センター方式の活用や、日々の言葉、表情、 行動等を記録し、毎週のケア会議等を通じて、職員間 での検討・共有が図られている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ情報を分析している。一昨年 より職員の退職者が殆ど無く、平行してご利用者の 個性や身体状況、習慣も十分理解したうえでの介護が 可能となっている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	センター方式を取り入れ情報を分析している。一昨年 より職員の退職者が殆ど無く、平行してご利用者の 個性や身体状況、習慣も十分理解したうえでの介護が 可能となっている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計 画を作成している	課題が発生すれば必要に応じ関係者で話し合いを持 っている。担当介護士は必要時、または3ヶ月毎に評 価表を用い、日頃のサービスを振り返ることにしてい る。	介護計画が現状に即したものとなるよう、モニタリ ングを重視した会議を設定し、活発な意見交換が行わ れている。本人・家族の意向を踏まえ、日々の詳細な 記録やセンター方式の活用、関係者間での積極的な 意見交換が、計画作成に活かされている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や 介護計画の見直しに活かしている	介護日誌は一日分をA4サイズとし詳細に日頃の様子 を記している。一連の記録で原因、経過、結果等を残 すことにより、継続的に観察できより適切な介護が できるように努力している。		

福岡県 グループホーム 豊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援は個別で支援、当日出来ない場合は近日中に日程を組み実施している。その他、個々人の要望を十分伺い、日中の時間帯であれば可能な限り実施している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所以前より参加されていた活動(同好会、宗教活動等)は継続できるよう支援している。また地域のボランティアでの慰問を受け入れ、歌や踊りを楽しむ体験ができるよう支援している。また地域のグランドゴルフ場の利用もしている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望する医療がうけられるよう支援している。その際職員が必ず同行することとしている。	本人・家族の希望によるかかりつけ医の選択を行ってもらっており、通院時も職員が必ず同行し、情報の共有が図られている。月2回、ホームの協力医の往診がある。看護記録が整備されている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師が2名在職し健康管理を行なっている。必要時医師より指示を受け処置を行なっている。看護師は24時間オンコール体制で緊急時につけ付け処置を行なっている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は衣類や消耗品の交換に数日毎に伺っている。その際、身体状況や退院時期について伺い今後に備えている。日頃より病院関係者との関係づくりを行い、ご利用者の受け入れがスムーズになるよう努力している。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重篤化した場合における対応指針を定め、重度化対応に関する考え方や重度化対応の体制、各職種の役割、看取り介護への対応等についてご本人、ご家族へ説明し同意を得ている。	重度化や終末期のあり方に関する指針を定め、本人、家族の同意を得ている。入居者、家族が安心につながるよう、医療的ニーズへの対応や各職種によるチームケア等の体制作りに努めている。状況の変化に応じて、関係者間での話し合いを重ね、方針を共有している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生術、起こり得る恐れのある事故、簡易人工呼吸器、吸引器の使用法について勉強会を定期的開催している。実際に蘇生術を施行した例は平成21年度で2回あり、ご利用者は健在である。		

福岡県 グループホーム 豊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを詳細に作成し、マニュアルに従って全職員を対象とした訓練を行なっている。	併設する特定施設と合同にて、年2回、昼夜を想定した訓練を実施している。予告なしに緊急連絡網の発令を行い、非常災害訓練後は反省会を行い、今後に繋げるよう取り組んでいる。スプリンクラーは設置済みとなっている。	特定施設との充実した連携を活かし、実践的な訓練の実施、及び課題についての検討が行われている。運営推進会議等も活用しながら、地域住民や家族、行政等との協力体制の構築に向けた働きかけに期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃よりプライバシーについて具体的に配慮できるような介護法をマニュアル化している。個人情報の管理は厳重に行い、関係者以外に情報が流出しないよう注意している。	毎朝の理念の唱和において、一人ひとりの人格の尊重を再確認している。排泄時や入浴時の支援のあり方についてマニュアル化し、プライバシーの確保に努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら発語されることが珍しいご利用者も存在する。また嘔吐の方もおられゼスチャーでコミュニケーションを行なっている。要望を先回りして受け取るのではなく最後までしっかり傾聴することを心がけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の言動、行動、体調より、今現在の意向を確認し、利用者が一番安楽で快適な状態がとれるよう援助している。基本的に健康チェック、食事、入浴時間以外は利用者のペースで送る。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた装いができるよう買い物に同伴したり、使い慣れた化粧品の購入や行きつけの美容室の利用などができるよう援助している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近くに農園があり収穫した野菜の下処理を会話を楽しみながら行ったり、食器の片付けを手伝ってくださったり進んでされることを歓迎している。	近隣にある農園にて収穫された野菜の下準備等を共に行ったり、食事の後片付け等に個々に応じた役割を担ってもらっている。アンケート調査による個別の嗜好の把握を献立作成に活かしている。温泉に出掛けた際の外食は好評を得ている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の健康状態に合わせ食事内容、量を調節している。高血圧症の方には減塩食、腎臓病の方には減塩に加え、医師の指示に基づいた水分制限、嚥下困難な方にはトロミを加えたり、ペースト状に形態を変化させるなど配慮している。		

福岡県 グループホーム 豊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に全員行っている。自分で出来る範囲で行っていただき仕上げ磨きを行なっている。舌苔がある場合は舌ブラシを使用している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄時間を管理し定期的に誘導し排泄の失敗を減らすようにしている。車椅子乗車の方もトイレでの排泄を基本としている。	排泄チェック表による状況やパターンの把握に努め、プライバシーへの配慮に努めながら、個別に応じたトイレ誘導を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養はバランス良く、食物繊維に配慮した献立にし、水分補給をこまめに実施している。いつでも水分がとれるよう中央にウォーターボットを準備している。ラジオ体操を午前、午後実施し腸の蠕動を促している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個浴であり要介助者を火曜日、金曜日、自立者を水曜日、土曜日とし、順番を決め込み合わないようにしている。その他、足浴を週2回、希望があればシャワー浴を実施している。	午前と午後に別れ、入浴時間を取っているが、2箇所のリフト浴、家庭浴など臨機応変に対応され、入浴日以外にも足浴日をつけるなど清潔保持への支援が行われている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者のその時々状況を見れば安静度がわかる。休息や午睡、就寝時間を個人のペースで取り入れることにより気持ちよく過ごせるよう努力している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の使用薬品情報、薬品管理表を用い正確に管理できるようシステム化している。服薬援助方法で問題があれば、その都度対策を練り確実、安全に服薬できるよう援助している。副作用への観察、身体状況の変化への把握に努めている		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式で全体像を把握し、生き生きと生活して頂くにはどのような支援が必要であるか分析。個々に応じた楽しみ方ができるよう努力している。		

福岡県 グループホーム 豊

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候の良い日は敷地内での日向ぼっこ、施設の裏から続く田んぼの畦道を散歩したり、近くの商店へ散歩がてらに買い物へ行ったりしている。DVDのレンタルショップ、寿司屋、喫茶店、近場の温泉、教会、趣味の会へも希望に応じ外出支援している。</p>	<p>周辺や敷地内の散策、近隣商店への買い物等、積極的な外出支援が行われている。レクリエーション委員会の企画では、少人数で温泉に出掛け、帰りは外食する等の支援も行われている。趣味活動や同好会参加、信仰の継続等、個別支援にも取り組んでいる。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご利用者の能力に応じた自己管理を支援している。集団生活の場であり紛失時のトラブルを考慮し所持金は1万円以内の範囲でお願いしている。管理能力はないが自動販売機の使用可能な方には小銭を渡し、自ら購入できるよう支援している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>必要であれば手紙等は居室にて代読、郵便物の代理投函を行なっている。大切な人の電話番号は大きな字でメモしている方が多く、希望あれば電話の取次ぎを行なっている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用のホールにはテーブル上に絶やすことなく生花を飾り、壁には季節に応じた壁紙を飾っている。臭気が発生しないよう感染予防を兼ねた次亜塩素酸Naを成分とした消臭機器を各所に設置している。また不快な物音をたてないよう注意している。</p>	<p>併設する特定施設との行き来が自由に行われている。季節感や清潔感への配慮が随所に感じられる。開放的な空間作りが行われている。室内のソファや屋外にもベンチが設けられており、それぞれの方々にとっての寛ぎの場所が確保されている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>併設施設と自由に行き来出来るようになっており、個々に好きな場所で気の合う方同士過ごされている。戸外には点々と椅子、ベンチを置き自然を眺めながらのんびり過ごされている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時は自宅で愛用されていた家具等持込可能なことを伝え安全を考慮した上でご本人の希望に添って配置している。</p>	<p>家族とも相談しながら、使い慣れた家具等を持ち込んでもらっている。個別の感覚も大切にしながら、入居者が居心地良く過ごせるよう、環境作りへの工夫が行われている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>館内はバリアフリーで通路には通行の妨げにならないよう備品をおかないようにしている。洗面所蛇口は操作しやすいようワンタッチレバーである。夜間の照明の工夫、採光に配慮している。</p>		